

# STUDENTS

つくばスチューデント

## 学生生活実態調査 特集号



p.2 はじめに

p.3-12 学生生活実態調査〔学群〕

p.13-22 学生実態調査〔大学院〕（筑波地区）

p.23-27 学生実態調査〔大学院〕（東京地区）

Web版つくばスチューデント URL  
<http://www.tsukuba.ac.jp/public/students/>



筑波大学  
University of Tsukuba

# はじめに

筑波大学の学群生を対象とした学生生活実態調査は、開学5年目の昭和53年度（1978）に第1回が実施され、以後平成20年度（2008）まで5年間隔で7回行われてきました。また、大学院生を対象とする実態調査は、その間4回実施されています。しかし、学生の実態や意向をより正確に把握することで、学生支援の質を高めようと、平成22年度（2010）からは2年に1度実施することとしました。

そのような経緯で、昨年9月に学群と大学院の両方で学生（生活）実態調査が行われることになりました。その調査において、特に留意したのは次の4点です。1）生活及び学修支援向上に資するデータの取得を第一としました。2）留学生が回答しやすいように、英文の調査票も準備しました。3）正確な情報を得るため悉皆調査とし、自由記述欄も設けました。4）大学院では、東京キャンパス社会人大学院生向けの調査票を別途作成しました。

調査は印刷物を用い、回答肢に印を付けてもらう、最も一般的な方法としました。学群の回答者数は4,493人、回答率は44.6%でした。大学院の回答者数は、筑波キャンパスが2,321人（回答率38.1%）、東京キャンパスが188人（回答率27.8%）でした。各部局によって回答比率に相当なばらつきがでましたが、回答率の更なる向上は今後の課題としたいと思います。

調査結果は、報告書（「平成22年度学生生活実態調査 [学群]」及び「平成22年度学生実態調査 [大学院]」）としてまとめられました。その両冊子は、各教育組織に配布されるとともに筑波大学ホームページにも掲載されています。ただ、少し大部なものになるため、一般の教職員や学生諸君に配布することは控えました。

その代替として、報告書から主だった設問を抜き出して、ダイジェスト版報告書を作成することとしました。それが、このSTUDENTS号外です。ぜひご覧いただき、筑波大学の学生像なり、本学の特徴なりを掴み、学生支援の向上に活用して頂きたい、お願い申し上げます。要約版ですので、当然ながら、調査票も含まれておりませんし、掲載されている設問は全体の5分の1ほどです。必要に応じて「報告書」をご参照くださるようお願いいたします。教育組織とともに各支援室にも配布しております。

最後に、この調査に回答してくれた学生諸君並びに調査実施にあたってご尽力いただいた教職員の皆様に深く感謝いたします。

平成23年5月

学生担当副学長 西川 潔

# 学群

## 1 性別・所属学類（専門学群）・在籍年次（問1～問3）

- ◎平成22年9月1日現在で、学群の在籍学生数は10,067名。
- ◎全体の回収率は44.6%。

問1～問3では、性別・所属する学類ないし専門学群・在籍年次を尋ねている。

平成22年9月1日現在で、学群の在籍学生数は10,067名であった。前回調査が行われた平成20年度（10月1日現在）は10,187名であったので、わずかに減ったことになる。新学群制度への移行で定員がすこし減少したためであると思われる。また、年次別にみると、在籍学生数は低学年になるにつれ徐々に減ってきているので、これは定員充足率110%枠を意識した入学者の確保が進んできていることと関係があるとも考えられる。

回収率については、前々回の調査では26.0%、前回は48.6%であったが、今回は44.6%である。年次別に見ると、1年次：58.4%、2年次：45.6%、3年次：41.2%、4年次：34.4%となっていて、低年次生ほど回収率が高いが、学年間でバランスを欠くほどの違いは出ていない。

表1 平成22年度 筑波大学 学生生活実態調査 回収率（学群別、全体）

学群	在籍学生数 (平成22年9月1日現在)							回収票数							回収率 (%)						
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計
人文・文化	261	269	265	342			1,137	155	99	74	74			402	59.4	36.8	27.9	21.6			35.4
社会・国際	182	175	189	294			840	58	17	34	47			157	31.9	9.7	18.0	16.0			18.7
人間	133	129	132	135			529	84	56	59	67			266	63.2	43.4	44.7	49.6			50.3
生命・環境	285	296	292	324			1,197	233	119	75	104			530	81.8	40.2	25.7	32.1			44.3
理工	570	614	635	719			2,538	300	339	360	293			1,293	52.6	55.2	56.7	40.8			50.9
情報	246	240	298	319			1,103	159	120	157	113			550	64.6	50.0	52.7	35.4			49.9
医学	214	216	222	218	100	117	1,087	199	167	157	104	39	107	773	93.0	77.3	70.7	47.7	39.0	91.5	71.1
体育	251	251	248	285			1,035	17	70	19	84	(年次不明1)		191	6.8	27.9	7.7	29.5			18.5
芸術	110	109	113	159			491	105	57	49	48	(年次不明1)		260	95.5	52.3	43.4	30.2			53.0
その他							110	5	4	2	27	1	2	71							
合計	2,252	2,299	2,394	2,795	100	114	10,067	1,315	1,048	986	961	40	109	4,493	58.4	45.6	41.2	34.4	40.0	95.6	44.6
	903	912	939	1,118	30	40	3,989	605	461	409	391	14	39	1,919	67.0	50.5	43.6	35.0	46.7	97.5	48.1

※回収票には、白紙および年次・学類とも不明が30件あった。合計欄の下段は、女子を内数で示してある。なお、性別不明は92件。

※各組織の在籍学生数には、旧学群組織の自然学類、人間学類、看護・医療科学類、図書館情報専門学群の4年次生数（110名）は含まれていない。

## 2 現在の居住地について（問6）

- ◎春日地区および天久保地区のアパートに住む学生が6割以上。
- ◎千葉県と埼玉県に住む学生が増える傾向にある。

学生宿舎の居住者以外の学生に対して、現在の居住地について尋ねた。次頁のグラフに見るように、つくば市春日（35.0%）、および、つくば市天久保（27.6%）の居住率が飛びぬけて高く、この2地区だけで全体の6割以上を占めている。前回の調査（平成20年度）では、この2地区の居住率（学生宿舎を除いた場合）はそれぞれ35.7%および32.5%であったが、それ以後、天久保地区で少し減少しているという結果である。つくば市内では、桜地区（6.9%）、吾妻地区（1.3%）がこれに次ぐが、これらの地域の居住者も2年前よりは少し減っている。

TX開通に伴って自宅通学者が増加しているが、集計における「千葉県」「埼玉県」の数値はそれを裏付けるものとなっている。2年前と比較して千葉県は3.7%から4.7%に、埼玉県は2.0%から2.5%にそれぞれ割合が増えている。「茨城県南地域」は4.8%で、2年前と変わらずであった。

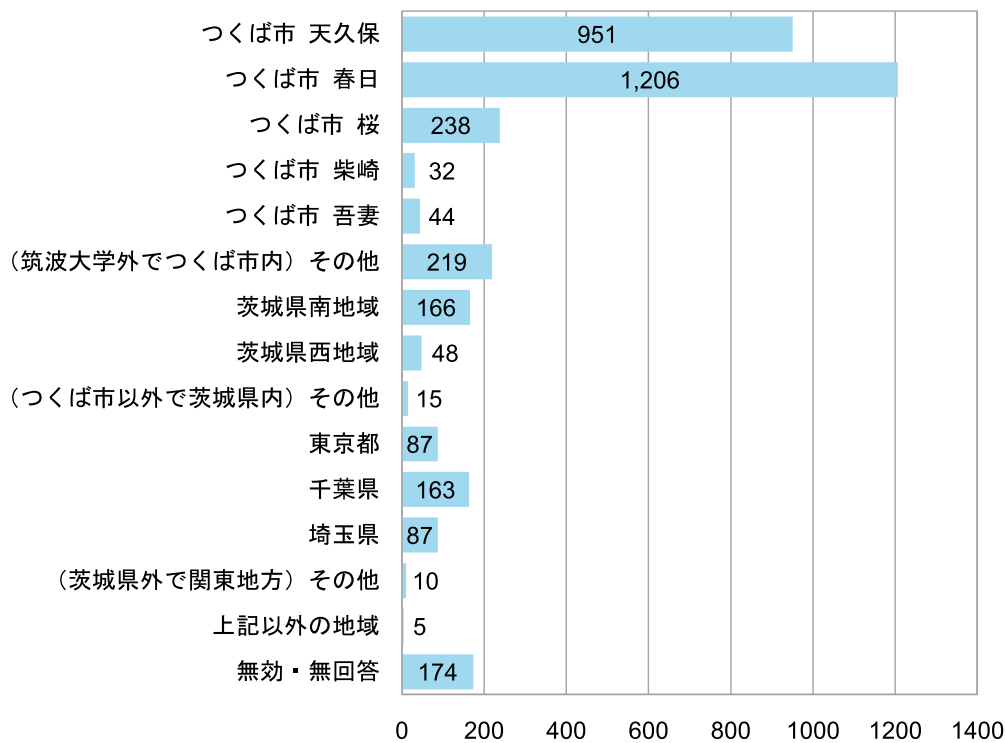


図2 現在の居住地（全体、n=3445）

### 3 収入と支出について（問8）

#### 3.1 収入

- ◎収入項目の平均の合計は126,000円，前回調査時（平成20年度）に比べて32,000円減少。
- ◎仕送りの平均は56,000円，前回調査に比べて6,000円減少。
- ◎奨学金の受給額の平均は38,000円，前回調査時に比べて7,000円減少。

臨時の収入をのぞいた一か月の収入の平均を「仕送り」「奨学金」「アルバイト」「借金」「その他」の各項目に万円単位で記入してもらった。図3.1.1は全学平均の収入を示したグラフである。また、図3.1.2は学年別の平均収入を示したグラフである。各項目の全額平均を合計すると12.6万円となり、この額は前回調査に比べ3.2万円減少している。なお、収入についてはいずれの項目についても、男女間に目立った差は見られなかった。

仕送りについて： 仕送りの全学平均は5.6万円で、これは前回調査に比べて6,000円減少している。学年が上がるにつれて仕送りの額は高くなる傾向にある。

奨学金について： 奨学金の受給額の全学平均は3.8万円で、前回調査時に比べて7,000円減少している。学年が上がるにつれ受給額は上昇するが、その差は微々たるものである。

アルバイトについて： アルバイト収入の全学平均は2.7万円で、前回調査に比べて7,000円減少している。学類別では、化学類、生物学類、物理学類など自然科学系の学類で少ないのが目立つほか、体育専門学群でも低い値となっている。他の学類間では目立った差は認められない。また、学年別にみると1年次には1.7万円と少なく、2年次以降では3万円前後と増加するが、医学の5・6年次では学年が上がるにつれ明らかに減少している。



図3.1.1 1か月の平均的な収入（全学平均）：単位は万円

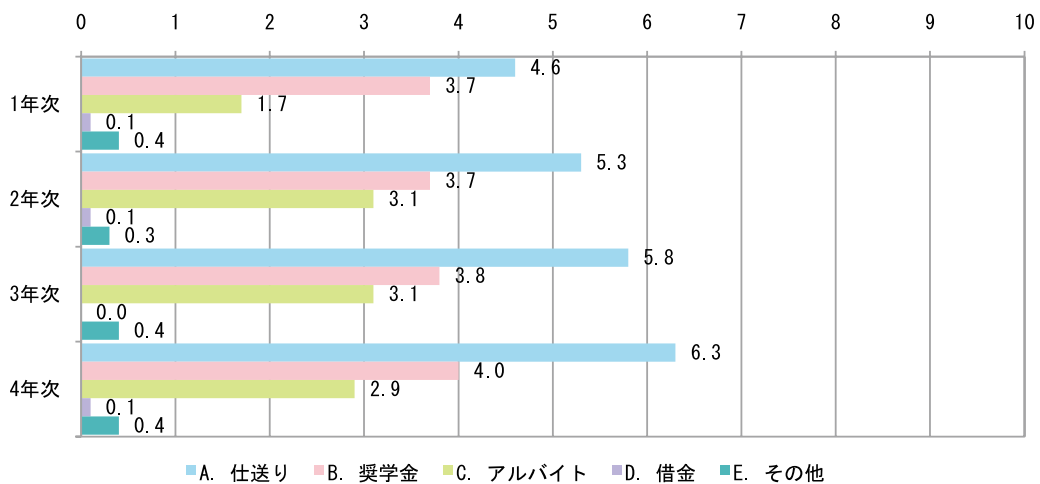


図3.1.2 1か月の平均的な収入（学年別）：単位は万円

### 3.2 支出

- ◎支出項目の平均の合計は94,000円，前回調査時に比べて7,000円減少。
- ◎食費24,000円，住居費35,000円，ともに前回調査に比べて2,000円減少。
- ◎学年が上がるにつれて食費と住居費の支出額が上がる。

臨時の支出をのぞいた一か月の収入の平均を「食費」「住居費」「就学費」「交通費」「通信費」「その他」の各項目に万円単位で記入してもらった。図3.2.1は全学平均の支出を示したグラフである。また、図3.2.2は学年別の平均収入を示したグラフである。各項目の全額平均を合計すると9.4万円となり、この額は前回調査に比べ7,000円減少している。

食費と住居費は学年が上がるにつれて多くなる。特に1年次から2年次の間で住居費の伸びが大きいですが、これは1年次生に宿舍利用者が多いためと思われる。支出について、いずれの項目についても男女間にほとんど差が見られないが、食費だけは全学平均で男性が女性より4,000円多い。学群・学類別には、体育専門学群と医学類で

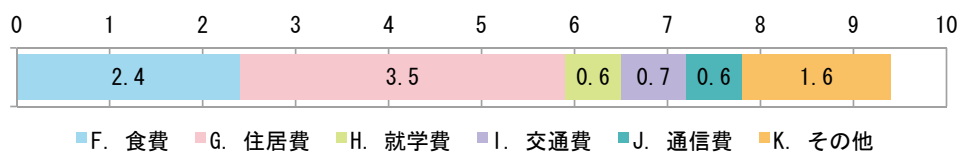


図3.2.1 1か月の平均的な支出（全学平均）：単位は万円

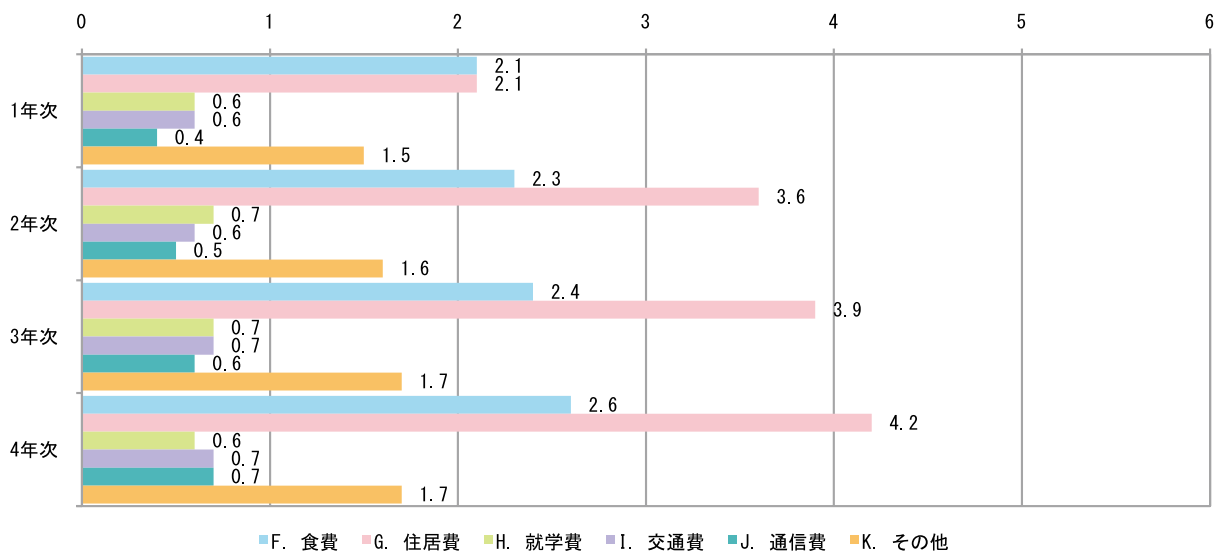


図3.2.2 1か月の平均的な支出（学年別）：単位は万円

食費が若干多いこと、医学類で住居費が明らかに多いこと以外には大きな差は見られない。

就学費については、芸術専門学群と医学類で明らかに他の学類より多い。この点を除くと、学年間でも学類間でも男女間でも就学費には大きな差はなく、全体にはほぼ一定の値が示された。交通費や通信費についても学年間や学類間および男女間に明瞭な差は認められず、全体にはほぼ一定の値となっている。また、これら就学費や交通費および通信費については、前回の調査から目立った変化は見られない。

#### 4 学生宿舎の満足度について（問15・問16）

- 改修棟は新料金を含め満足度が高い。
- 未改修棟の入居者は、前回調査と同様に半数以上が何らかの不満を感じている。

学生宿舎の満足度について、前回と同じく「入居している」または「入居していた」学生にのみ回答を求めた。併せて、今回は、平成21年度から5ヵ年計画で学生宿舎の一部改修を始めているため、問15において入居棟を記入してもらい、改修棟と未改修棟（一般棟）にそれぞれ入居している学生の満足度の比較を行った。また、改修棟は新寄宿料を設定しているため、問16に新たに料金についての設問を追加した。その結果、料金については、改修棟の新寄宿料に対して約80%以上が満足しており、未改修棟の入居者を含め不満を持つ学生は少なかった。また、改修棟では、居室やトイレについて5～6割の学生が満足しており、不満は2割程度である。これに対して、未改修棟では、「補食室」「トイレ」に対する不満が多く、「補食室」には75%の学生が（やや）不満と答えている。これは前回とほぼ同じ数値である。なお、改修棟であっても「補食室」に不満を感じる者が半数程度おり、これは利用者の使い方や後片付け等の問題に起因しているものと思われる。

洗濯室については、平成22年度からコインランドリーが導入されたが、前回と比べ、不満度がわずかに減少したものの、大きな改善にはつながっていない。料金面での負担が増加したと感じる学生が多いためであろう。「浴場」と「認証システム」については、依然として満足度は低いままである。

全体では、未改修棟の学生は前回と同じ約半数の者が何らかの不満を持っているが、改修棟にあっては約8割の学生が不満を感じていないという結果が得られた。

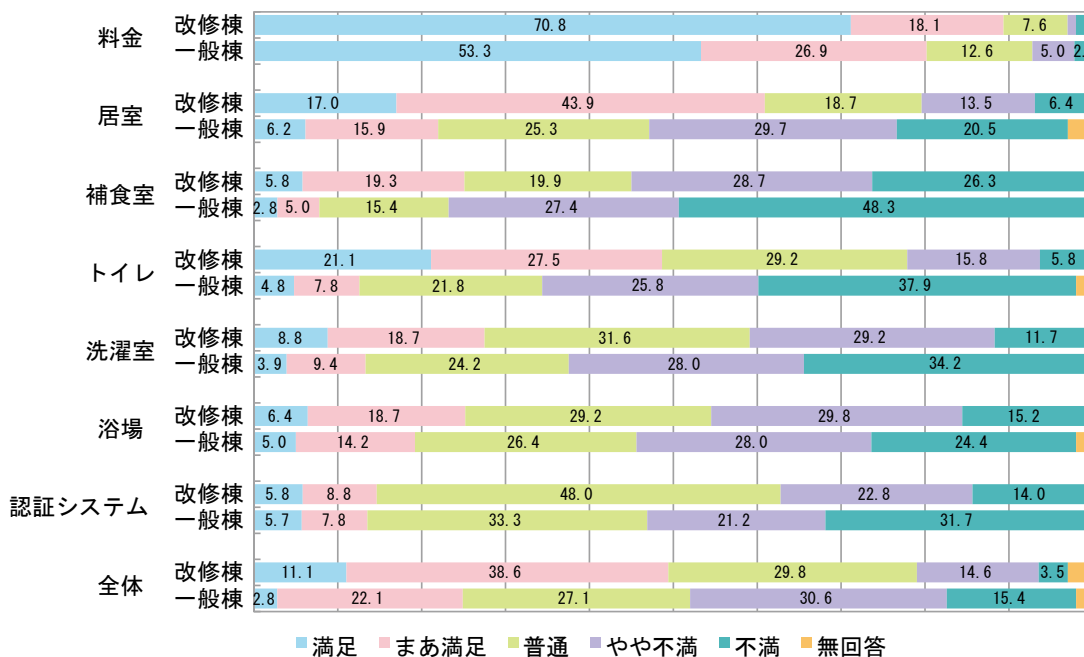


図4 学生宿舎満足度（全体）

## 5 日常生活の満足度について（問18）

- ◎7割の学生が満足している。不満の学生は1割。
- ◎心理的、精神的な要因が満足度に大きく関係する。

日常生活の全体的な満足度を答えてもらった。その結果、「かなり満足」が8.5%、「おおむね満足」が60.4%で、7割近くの学生が満足している。一方、「少し不満」が7.6%、「かなり不満」が2.4%で、不満と感じている学生が1割いることが分かった。2年前の前回調査と比べると、満足している学生が増加し、不満を感じている学生は減少している。

住居形態との関連をみると、学生宿舎に住んでいる学生は民間のアパート等に住んでいる学生より、満足度が7%ほど低いですが、不満度には大きな違いはみられない。親と同居している学生は、満足度、不満度とも、学生宿舎の住人とはほぼ同様である。また、1か月の収入や通学時間と日常生活の満足度との間にはあまり関連はみられない。

「精神的な健康」の設問において「自分のやりたいことができている」「大学生活が充実している」と答えている学生では8割近くが満足している。一方、心理的、精神的問題を持つものでは日常生活に満足を感じている学生は5割を切り、逆に不満を感じる学生は3割近くになり、日常生活に満足度を感じる上でこれらの要因が大きく影響することが伺える。

男女別でみると、男性では65.4%、女性では74.0%が満足と感じており、女性の満足度が高い。学群・学類別では、理科系の学類や芸術学類等で満足度が6割前後とやや低いがそれほど目立った違いはない。

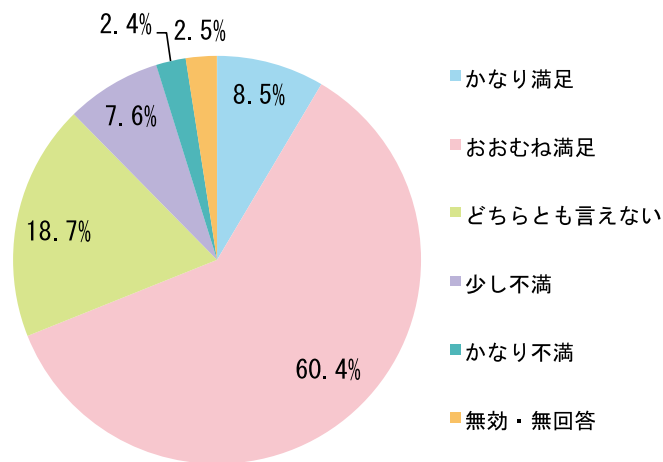


図5 日常生活の満足度

## 6 サークル活動について（問31）

- ◎サークル活動への参加者は増加。
- ◎学類・学群や学年によって、参加実態が異なる。

サークル活動への参加について、前回（平成20年度）に引き続き調査した。前回の調査では、「現在活動中」、「以前は活動していた」、「活動したことがない」の3つ中からあてはまるものを選択する形式であったが、今回は活動形態を「大学から認定された1つのサークルに属して活動中」、「大学から認定された複数のサークルに属して活動中」、「大学の認定を受けていないサークルで活動中」に区分し、より詳細に調査した。

全体では、「活動中」あるいは「以前は活動していた」と回答した学生は88.8%であり、前回の調査の78.6%を大きく上回った。また、「活動したことがない」と回答した学生は13.3%で、前回の16.5%より低下した。今回は複数回答であった影響もあるが、前回調査までの20年間続いたサークル活動への参加の減少傾向はようやく止まったと考えられる。また、活動しているサークルは、51.5%が大学から認定された1つのサークル、15.7%が大学から認定された複数のサークルで活動しており、合計67.2%が大学から認定されたサークルで活動している。一方、大学の認定を受けていないサークルで活動している割合は8%であった。

学群・学類別では、サークル活動をしたことがない学生が芸術専門学群に目立って多い（38.1%）。また、学年

別では、学年が上がるにつれて「活動中」が減少し（1年次：85.7%，2年次：79.1%，3年次：72.2%，4年次：60.3%），「以前活動していた」が増加する（1年次：3.5%，2年次：11.1%，3年次：14.9%，4年次：27.2%）。男女別では大きな違いは認められない。

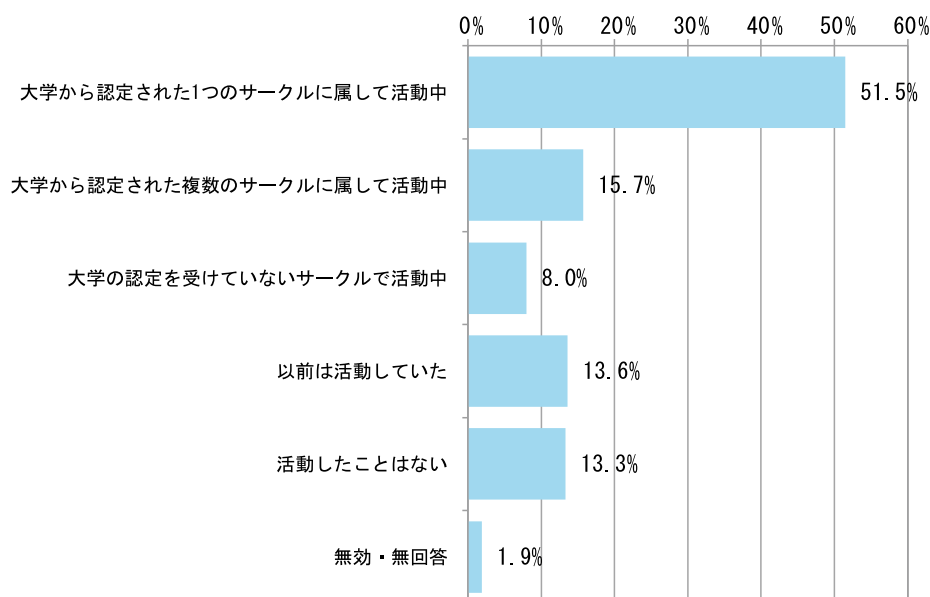


図6 サークル活動（全体）

## 7 教員に期待することについて（問37）

- ◎「学問・研究の楽しさを教えてほしい」という要望は60%弱。
- ◎他にも「授業内容」「わかりやすく」と指導・授業に関する希望が大半。

複数回答可（3つまで）で「教員に期待すること」を尋ねたところ、「学問・研究の楽しさを教えてほしい」「授業内容を充実させてほしい」「もっとわかりやすく教えてほしい」の3項目がどの学年、いずれの所属でも高い割合で選択されていた。このうち、「授業内容の充実」ならびに「わかりやすく」の2項目は従来の調査でも常に最もよく選ばれていた項目であった。

今回の調査では新たに「学問・研究の楽しさを教えてほしい」を含めたところ、60%弱の選択が見られた。従来の調査では「学問・研究の厳しさを教えてほしい」という項目があったが、長年にわたり10%を超えることがなかったのとは対照的な結果とも言えよう。

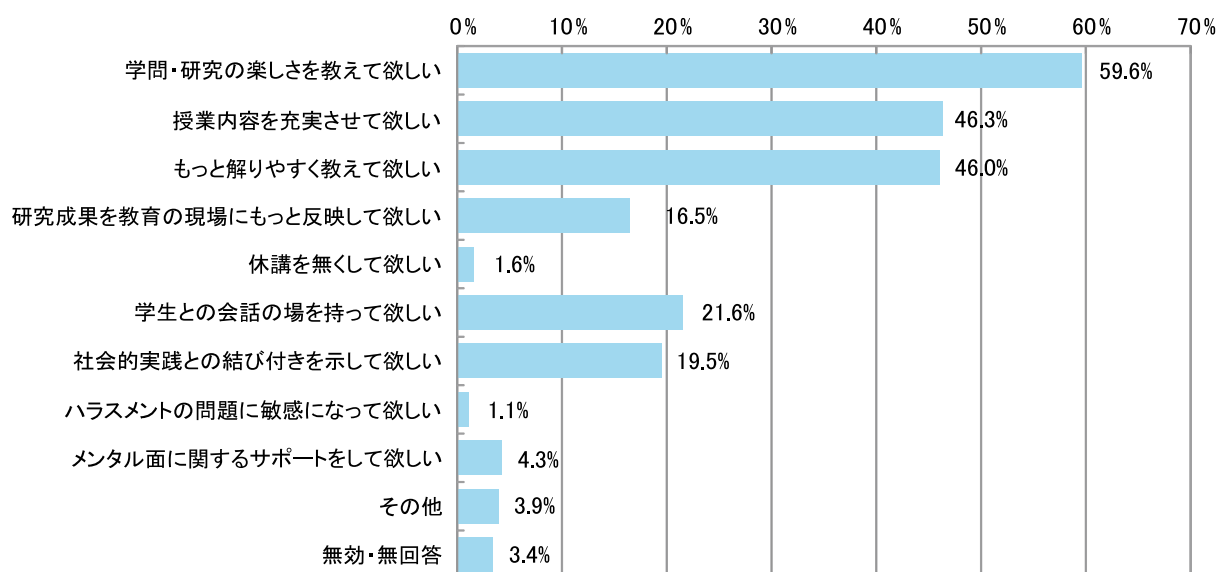


図7 教員に期待すること（全体）

## 8 教育面や制度面で不十分な点について（問38）

- ◎「カリキュラム」への要望をもつものは3分の1。
- ◎要望事項は多岐に渡っており、様々なシーンに応じて検討が必要。

複数回答可（3つまで）で「教育面や制度面で不十分であると感じること」を尋ねたところ、平均で1.6項目（「その他」への自由記述を含む）の不十分な点が選択された。前々回（2003年）までの調査に比べると、全体としての要望選択数は減少傾向にある。

もっとも選択比率が高かったのは、カリキュラムであるが、これは従来の調査と同様の結果となっている（2008年36.2%、2003年50.3%）。それ以外に10%を越える項目としては「教育スタッフ」「奨学金・授業料免除」「就職説明会」「クラス制度」など7項目が挙がってきている。所属や学年、性別などで大きな違いはないが、それぞれの学生のおかれた状況によって、要望事項が異なってきていることが伺える。

「その他」として自由記述された中では、「3学期制の問題点」をあげる記述がもっとも多く（69件）、ついで「支援室など事務での窓口対応」（40件）であった。数としてはそれほど多くないが、自由記述の中で一定数のまとまった反応が得られたことはなんらかの検討の必要性を示唆しているように思われる。

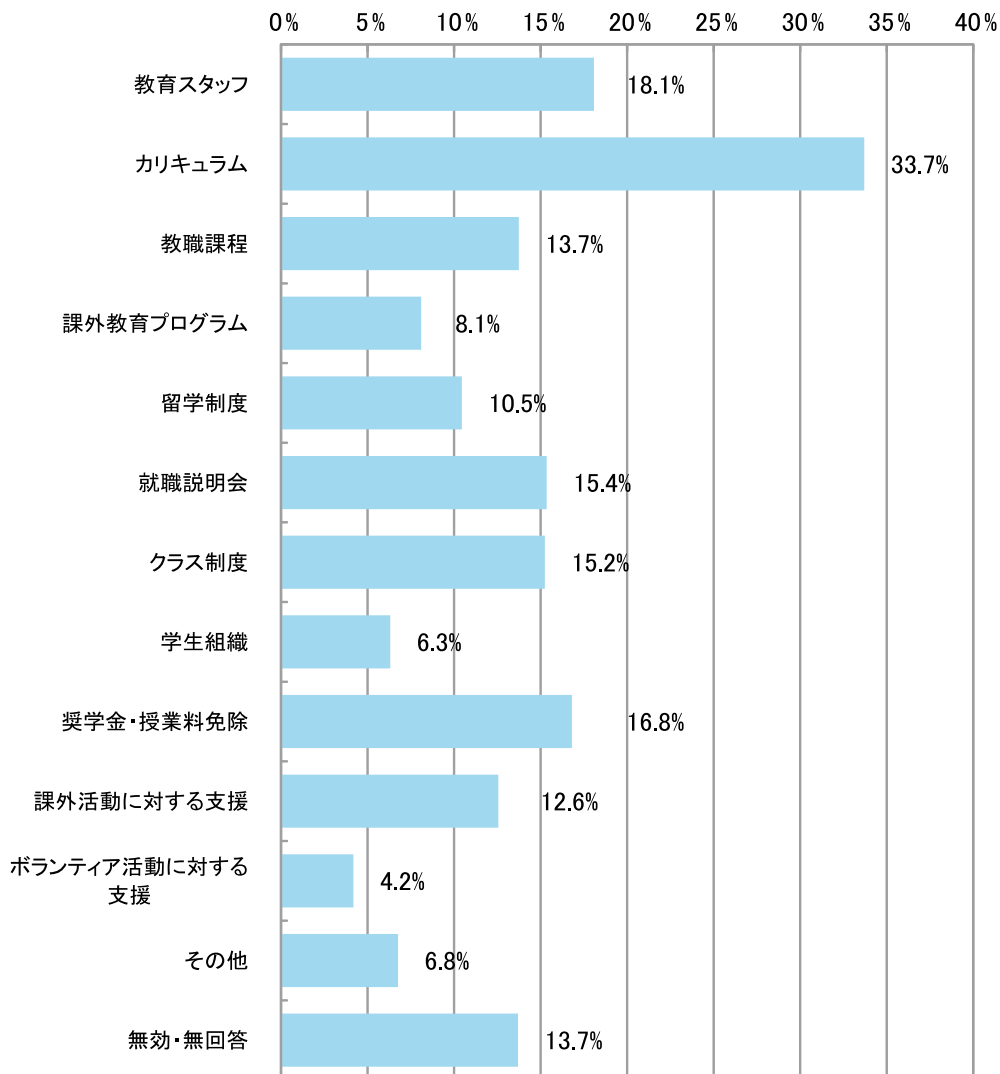


図8 教育面や制度面で不十分なこと（全体）

## 9 卒業後の進路について (問43)

- ◎1年次では、進学・就職を考えている学生が61%、未定は無回答を含めて38.6%。
- ◎高学年になるにつれ進路は決定されていくが、4年次でも約20%の学生が未定。
- ◎4年次でみると、進学46.4%、就職32.4%と進学希望者が上回る。

進路は進学と就職に大きく分けることができるが、4年次では、進学希望（選択項目1～4）が46.4%、就職希望（項目5～9）が32.4%である。2年前の調査時で初めて、進学希望の割合が就職希望の割合を上回ったが、今回はその傾向がより顕著になった。男性と女性では、女性の就職希望者が42.8%と男性の29.0%よりかなり高く、それに対して、進学希望者は、男性が41.6%と女性の23.1%より高い。

生物、物理、化学、応用理工、工学システム、情報科学の各学類は、高度な専門知識の習得のために、半数以上が進学を希望している。進学希望者を学群ごとに集計してみると、次のような数値になる。人文文化学群13.2%、社会国際学群10.1%、人間学群25.6%、生命環境学群50.3%、理工学群55.9%、情報学群29.3%、医学群14.1%、体育専門学群13.6%、芸術専門学群21.5%。

表9 卒業後の進路（学年別、男女別、全体、すべて%）

		1年次	2年次	3年次	4年次	医学5年次	医学6年次	男性	女性	全体
1	筑波大学大学院	23.7	17.6	30.4	43.5	2.5	0.0	34.3	18.5	27.3
2	国内の他大学大学院	6.8	5.5	4.7	2.5	0.0	0.0	6.2	3.2	4.9
3	海外の大学院	1.2	0.8	1.0	0.1	0.0	0.0	0.7	0.9	0.8
4	(進学) その他	0.5	0.5	0.3	0.3	0.0	0.9	0.4	0.5	0.4
5	企業	9.8	17.6	21.2	19.1	10.0	6.4	13.4	19.4	16.1
6	教員	5.5	6.1	4.1	3.7	0.0	0.9	4.6	5.0	4.8
7	公務員	9.0	9.0	9.6	5.1	0.0	1.8	5.5	11.0	8.0
8	自営・起業	0.8	0.9	0.2	0.3	0.0	0.9	0.7	0.5	0.6
9	(就職) その他	3.7	4.1	3.4	4.2	45.0	64.2	4.8	6.9	5.7
10	その他	0.3	0.7	0.3	1.0	7.5	4.6	0.4	1.1	0.7
11	決まっていない	22.8	21.1	15.7	14.5	20.0	15.6	15.3	23.8	18.8
12	まだ考えていない	4.6	4.0	1.7	0.8	0.0	0.9	3.1	2.7	2.9
	無効・無回答	11.2	12.3	7.3	4.8	15.0	3.7	10.7	6.8	9.1

## 10 自由記述

### 10.1 はじめに

自由記述欄回答の集計に際しては、回答を大きく以下の4つに分類し、さらに小区分を設けてまとめることとした。アンケート有効回答数4,493件のうち、自由記述欄に回答したものは総数で771件を数えた。

- A 制度（カリキュラム、就職支援など）に対する要望
- B 教職員に対する要望
- C 施設（空調、図書館、宿舎、食堂・売店など）に対する要望
- D その他

### 10.2 記述内容に対する概観

#### A 制度に対する要望・不満

##### A1 3学期制

2学期制の希望が62件あり、その理由として、就活・インターンシップに不都合、長期休業が他大学と合わないで大学間交流に不都合、ボランティアなどの大学生向け行事に参加できない、9月の学会時期に休講が多くなる、などを挙げている。他に3件も長期休業が他大学と合わないことに関する不満。前回の実態調査の時以来、状況が変わっていない。

##### A2 経済的支援

25件の回答があり、奨学金、授業料免除に関する不満、就活の交通費の援助、宿舎に入れなかった場合の家賃の援助などの要望もあった。

### A3 カリキュラム

前回の実態調査と同様100件を超える回答があった。履修に関する要望・不満、教職に関する意見が目立っている。履修に関する説明・相談などのサポート、申請を容易に、超過申請の期間延長、などの要望、集中の日程発表が直前で申請が難しい、同じ講義演習のクラスによる格差などの不満などがあった。教職に関しては、履修サポートの要請、集中に関する苦情、単位が取りにくいなどの意見があった。その他の点として、講義内容や卒業要件に関する不満、英語（英会話）教育充実の要望、体育の授業に関する不満、休み時間にゆとりがない、なども見られた。

### A4 キャリア・就職関連

3学期制のため就活が難しいという意見を除き、36件の回答があり、就職支援の強化、就職情報の充実、就活ガイダンスを増やし受けやすくすること（講義以外の時間に実施）、公務員試験・教員採用試験対策などの要望があった。また、教員側の就活に対する理解がないことへの不満の声もあった。キャリア支援室による努力がなされているが、就職難の時代故に、引き続き改善の努力が必要と思われる。

### A5 連絡広報体制

55件の回答があった。掲示板に関する要望が18件あり、見やすく、早く、休講情報は日付順に、不必要になったものの削除、デジタル化（PCや携帯でも見られるように）、などの要望があった。また、TWINSの機能向上に関する要望が26件あった。年間の申請登録単位数計算機能（年間45単位に関連して）とか、卒業要件までの単位試算機能を導入や本来あり得ない科目区分を設定した場合に履習登録が不可能になるシステムの導入、TWINS上で開設科目やシラバスも参照できる機能、セキュリティの強化と共に学外から容易にアクセスできるように、などの要望があった。TWINSにおいて休講などに関して、掲示板が有効に活用されていないとの指摘もあった。

### A6 その他

その他に分類された回答は65件である。留学に関して10件あり、ガイダンスや学資援助、英語教育の充実、留学しやすい環境などの要望があった。その他、課外活動の支援、他大学との交流、学類間の交流、留学生との交流、留学生への支援、クラス制度の見直し、などの要望があった。

## B 教職員に対する要望・不満

### B1 教員に対する要望・不満

72件の回答を数え、教員による授業の進め方に対する不満・要望が多く見受けられた。授業運営に関する一層の創意工夫が必要であり、そのためのFD・研修会のさらなる充実が望まれる。また、昨今の就職事情を反映してか、教員の就職活動への無理解を訴える回答も見受けられた。

### B2 ハラスメント

アルコールハラスメントに関する回答2件にとどまった。

### B3 事務職員の対応への不満

71件の回答があり、支援室事務職員の窓口対応に対する不満が多く見受けられた。また、事務受付時間を授業時間後まで延長するように訴える回答も多く見受けられた。これはA3のカリキュラムに対する要望とも重なるが、一部の学群・学類では早朝から夜まで授業が詰まっていて、支援室で事務手続きをするのもままならないようである。カリキュラム編成の見直しと共に、支援室の受付時間の見直しも検討したい。

### B4 その他

保健管理センターへの要望、自殺対策、就職対策等の要望があった。

## C 施設に対する要望・不満

### C1 学内施設

191件にのぼる多数の回答があった。そのうち90件以上の多数を占めたのはエアコン増設（1B、1C、6A、6B棟の要望が多い）や空調期間の延長などを求める要望であった。次いで、体育館や音楽関係などの課外活動施設の充実を求める意見が約20件あった。その他、建物（6A、6B棟と球技体育館）の雨漏り対策、喫煙スペースの整備、ロッカーの整備、春日キャンパスの整備を求める要望が多かった。この分類の回答件数が2年前より大きく増加しているが、猛暑の影響により空調関連の要望が増加したものと思われる。電気代の予算やCO<sub>2</sub>排出量削減などの問題もあるだろうが、授業期間中についてはもう少し改善できないだろうか。

### C2 図書館

21件の回答があり、その約3分の1は長期休業中の閉館日の増加や通常の開館時間の延長を求めるものであった。

### C3 学生宿舎

75件の回答があり、学生宿舎に関する不満や環境の改善を求める意見が多く見受けられた。特に浴場やシャワーに関連するものが20件程度あり、24時間使用できるシャワー室の設置・増設などを求める意見が多かった。宿舎が老朽化し不潔であるといった不満も多い。少数意見の中には、宿舎の料金が同じ場合でも設備が違うといった不満や、最近導入された青色防犯灯についての批判的な意見（安眠できない等）もあった。宿舎環境の改善には経費がかかるという大きな問題があるが、建設されてから長い時間が経過し、時代のニーズに合わなくなっている面もある。着実に改善していくことが望まれる。

### C4 学内食堂・売店

67件の回答があり、その約4分の3は食堂に関するものであった。主な意見として、メニューあるいは食堂の増設による充実化（特に医学地区）が最も多く、価格の値下げの要望（質に比べて価格が高い等）が次に多かった。残りの4分の1は売店や書籍部に関するものであるが、その大半は学内へのコンビニエンスストアの設置要望であった。

### C5 ペDESTリアンデッキなど

前回調査より30件多い、72件の回答があった。ペDESTリアンやループの改修に関する要望が約半数を占めた。特に自転車の交通が多いことから、ペDESTリアンの拡幅や学内ループを自転車で走りやすくするように改修することを望む声が多いようである。残りの大半は外灯増設の要望（特に一の矢地区、学外では東大通り）であった。

### C6 駐輪場・自転車走行・マナー

37件の回答があり、駐輪マナーが悪いあるいは駐輪場が少ないという意見が目立った。駐輪場のスペースについては、建物から離れているところに空きスペースもあるため、マナーの問題と考えることもできる。このほか自転車運転マナー（傘さし、無灯火など）に関する意見も多かった。少数意見としては、車の運転マナーや喫煙に関するものがあった。

### C7 防犯

17件の回答があった。宗教団体の勧誘活動を取り締まってほしいという意見が多く、次いでC5にも関連するが、夜間の帰り道が危ないという理由から外灯増設の要望が多かった。

### C8 キャンパス交通システム

12件の回答があり、路線バスの増発、路線バスとTXとの接続改善を求める声が多い。このほかバスの遅れを改善してほしいという意見もあった。

### C9 その他

15件の回答があり、駐車場の案内が分かりにくいなど駐車場に関する意見や石打研修所に関する意見があった。

## D その他

### D1 本アンケートに対する要望・不満

12件の回答を数え、その多くはアンケートが長いというものであった。また質問内容があいまいであるという意見や結果のフィードバックを求める声もあった。

### D2 その他

37件の回答があった。内容は多岐にわたるが、筑波大学の環境が閉鎖的であるという意見や交流を増やしてほしいという意見が目立った。そのほか、自宅通学生への配慮や自殺対策に関する意見もあった。

## 10.3 まとめ

自由記述欄には、多様な意見や要望が寄せられたが、紙面の関係上、すべてを書くことはできなかった。学生からの生の意見に真摯に耳を傾け、他大学に先んじて、学生生活の向上に向けて努力をしていく必要があるだろう。

# 大学院（筑波地区）

## 1 性別・年齢・所属について（問1～問3）

- ◎大学院学生（筑波地区）の在籍数は6,084名。
- ◎年齢別構成は、前回とほぼ同様。30歳以上は14.5%。

まず基本的事項として、性別（問1）・年齢（問2）・所属研究科（問3）について尋ねた。結果は、表1にまとめた通りである。

大学院学生の在籍数（平成22年9月1日現在）は全体として6,760名で、前回調査時（平成20年10月）よりも463名（7.4%）増となっている。この内、筑波地区の大学院学生は6,084名である。筑波地区における在籍学生数の男女比は、男性4,055名（66.7%）に対して、女性2,029名（33.3%）となっており、ちょうど女性が3分の1を占めている。

回答率については、筑波地区で38.1%となり、前回調査の回答率34.8%を上回った。男女別では、回答数の割合が、男性65.9%、女性33.5%（無効・無回答0.6%）で、これは男女の在籍数の割合とほぼ同じである。研究科でみると、数理物質科学研究科とシステム情報工学研究科で高く、人文社会科学研究科でやや低くなっている。

回答者について年齢別に見てみると、年齢が上がるにつれて学生数は減少する傾向にあるが、40歳以上の学生だけは、35歳～39歳の学生とほぼ同数になっている。前回の調査では、東京地区の大学院生も併せて集計していたため、40歳以上の学生数が多くなっていたが、東京地区の学生を除いて比較すると、今回の年齢別構成は前回とほぼ同様である。ちなみに、30歳以上の大学院生は、前回（ビジネス科学研究科を除く）14.6%で、今回は14.5%となっている。

表1 回答者数（研究科別、男女別、年齢別、人間総合科学研究科は東京地区を除く）

研究科名	在籍数	回答者数	回収率	男性	女性	無回答	24歳以下	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40歳以上	無回答
教育	227	73	32.2%	45	28	0	53	10	2	2	5	1
人文社会	659	176	26.7%	74	101	1	54	76	32	10	4	0
数理物質	835	387	46.3%	337	49	1	275	90	15	3	4	0
シス情	1,308	604	46.2%	531	72	1	417	159	17	5	6	0
生命環境	1,148	434	37.8%	264	170	0	215	140	41	19	17	2
人間総合	1,708	557	32.6%	240	316	1	205	217	72	29	33	1
図情メ	199	77	38.7%	37	40	0	36	21	6	7	7	0
白紙・無回答		13		2	1	10	0	3	0	0	0	10
合計	6,084	2,321	38.1%	1,530 (65.9%)	777 (33.5%)	14 (0.6%)	1,255 (54.0%)	716 (30.8%)	185 (8.0%)	75 (3.2%)	76 (3.3%)	14 (0.6%)

## 2 筑波大学大学院を志望した主な理由について（問8）

- ◎志望動機として多いのは「希望分野」「研究領域」「指導教員」。
- ◎「研究室の雰囲気」「修了後の進路等就職に有利」が微増。

筑波大学大学院を志望した理由について14項目の中から3つ以内の選択で回答してもらった。志望動機の中で最も多かったのは「希望する分野がある」（50.4%）であり、次いで「研究領域に魅力がある」（45.1%）、「指導教員の資質・能力」（33.3%）となっており、2年前の前回と上位項目に変化はなかった。

それ以外の理由を選んだ学生はいずれも全体の2割以下であり、「研究室の雰囲気」「修了後の進路等就職に有利」が前回より微増しているが、筑波大学大学院進学者の多くは、大学の教育・研究施設や学費等よりも、研究環境に重きを置いて進学先を決めていることがうかがえる。

研究科別にみえていくと、研究科間に大きな差異は認められないが、教育研究科では「教育内容が優れている」が26.0%と他研究科に比べて高くなっている。

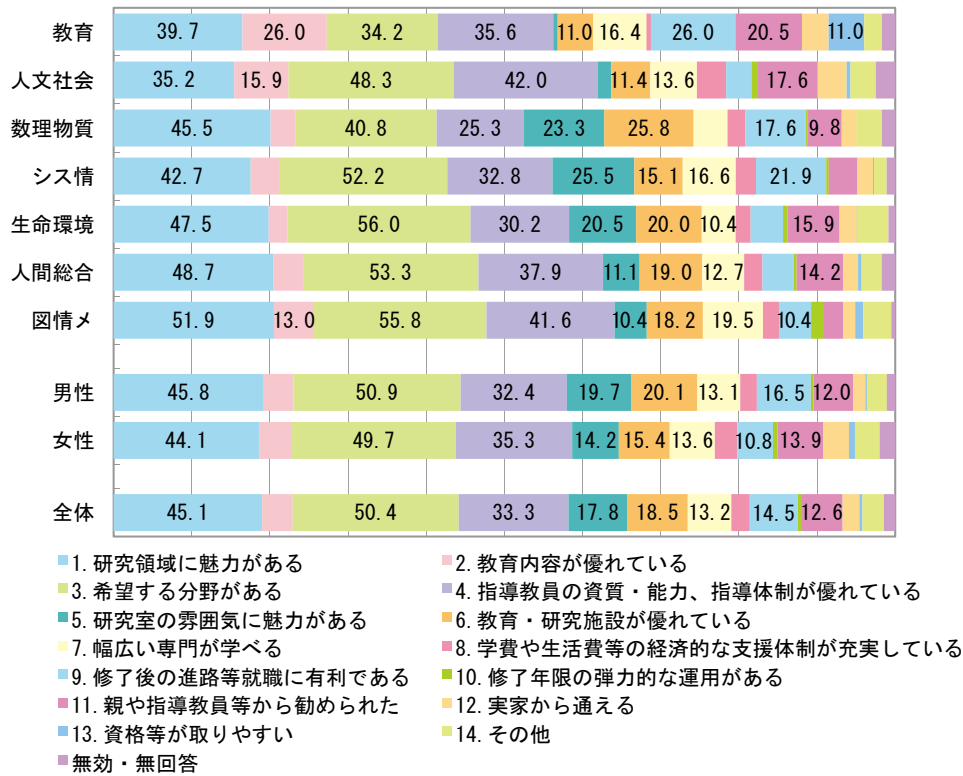


図2 志望理由（研究科別，男女別，全体）

### 3 現在の居住地について（問12）

◎大学院生の約8割がつくば市内に居住している。

現在の居住地について尋ねた。その結果、地理的には約8割（79%）がつくば市内に居住している。残りは県内の他の地域や近郊の東京都・埼玉県・千葉県などに住んでいる。

もう少し細かくみると、つくば市内では「天久保」「春日」で57.1%、「桜」まで含めると6割以上となっている。前回よりも1割以上も増えており、依然としてこの3地域に集中していることがわかる。

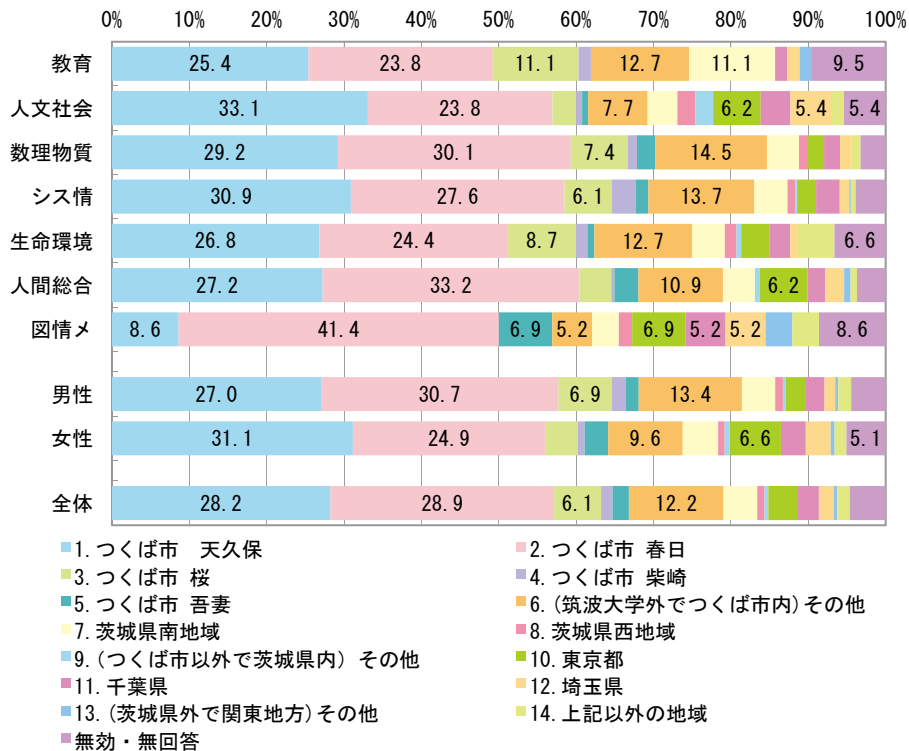


図3 現在の居住地（研究科別，男女別，全体）

#### 4 世帯の年間収入について (問14)

◎年間収入が400万円未満の世帯が4割強を占めている。

「あなたを学資支援している世帯の年間年収について」の調査は今回が初めてである。表4にみるように、「分からない」がもっとも多く22.6%となっているが、授業料免除や奨学金の申請をしていない学生は親の年間収入まで把握していないためであると思われる。ちなみに、学群生向けの同質問では「分からない」が42.7%に上っている。

年間収入が200万円未満の世帯が11.6%、200万円～300万円が9.6%、300万円～400万円が5.6%などとなっている。300万円未満を除くと、1000万円以上を含めて、収入額の層はほぼ均等に広がっている形である。回答率を「学資支援は受けていない」「分からない」および「無効・無回答」を除いて計算しなおしてみると、表の右側のような結果になる。この集計では、年間収入が400万円未満の世帯が43.1%となる。また、学群生の回答率（計算しなおしたもの）と比べてみると、学群生では200万円未満の世帯が7.8%、200万円～300万円が9.8%、300万円～400万円が10.5%、1,000万円以上が15.4%となっている。学群生でも収入額の層はほぼ均等に広がっているが、大学院生の方が収入額が低い方の割合が高くなっている。これは大学院生に独立生計者が多いためであろう。

外国人留学生では、年間収入が200万円未満の世帯が36.5%、年間収入が400万円未満の世帯が54.8%を占めている。

表4 世帯の年間収入 (全体)

	全体		
	回答数	回答率	11, 12および無回答を除いた回答率
1 200万円未満	268	11.6	18.8
2 200万円以上～300万円未満	221	9.6	15.3
3 300万円以上～400万円未満	130	5.6	9.0
4 400万円以上～500万円未満	120	5.2	8.3
5 500万円以上～600万円未満	130	5.6	9.0
6 600万円以上～700万円未満	112	4.8	7.8
7 700万円以上～800万円未満	106	4.6	7.4
8 800万円以上～900万円未満	94	4.1	6.5
9 900万円以上～1,000万円未満	118	5.1	8.2
10 1,000万円以上	141	6.1	9.8
11 学資支援は受けていない	281	12.1	
12 分からない	523	22.6	
無効・無回答	70	3.0	
合計	2,314	100.0	100.0

#### 5 奨学金の受給について (問15)

◎大学院生全体の半数以上が何らかの奨学金を受けている。

◎日本学生支援機構の奨学金受給者は減少傾向にある。

奨学金の受給について尋ねた（複数回答であったが、回答率の合計が100.7%であるので、実際の複数回答者は10数人である）。大学院生で何らかの奨学金を受給している学生の割合は全体の56.4%である。前回調査でビジネス科学研究科を除いた割合は58.3%であったので、2年前よりわずかに受給者が減少した格好である。

日本学生支援機構の奨学金の貸与を受けている学生の割合は42.1%で、前回調査時の48.2%よりやや低くなっている。奨学金受給者の内訳では、73.7%が日本学生支援機構の貸与型奨学金であるが、前回調査時の約84.4%と比較すると11%ほど低くなっている。それ以外の「日本の民間団体・財団等の奨学金」および「日本学術振興会の特別研究員」が（奨学金受給者の内訳で）それぞれ1.5%ほど増加している。

修士課程、博士前期課程および一貫制博士課程1, 2年生で計算してみると、何らかの奨学金を受けている学生は54.9%、博士後期課程および一貫制博士課程3年次以上では63.1%となり、年次が上がるにつれて、奨学金受給率は高まる。しかし、標準履修年次を超えて在籍している学生にとっては奨学金は得にくく、受給率は33.0%に低下する。

留学生についてみると、国費留学生と私費外国人留学生学習奨励費等の何らかの奨学金を受けている学生は、留学生全体の57.2%であった。留学生の奨学金受給者は増加している。

なお、「その他」への回答では、つくばスカラシップ、NIMSジュニア研究員、JICAスポンサーシップがそれぞれ数件あり、やや目立っている。

表5 奨学金の受給者（全体）

		全体	
		回答数	回答率
1	受けていない	996	43.0
2	日本学生支援機構の奨学金	975	42.1
3	私費外国人留学生学習奨励費	50	2.2
4	地方公共団体の奨学金	10	0.4
5	日本の民間団体・財団等の奨学金	62	2.7
6	日本学術振興会の特別研究員	67	2.9
7	文部科学省国費留学生	90	3.9
8	自国政府の奨学金（留学生の場合）	28	1.2
9	その他	41	1.8
	無効・無回答	11	0.5
	合計	2,330	

## 6 1ヶ月の生活費・研究活動費について（問20）

◎「足りている」のは約半数。

生活費・研究活動費について尋ねた。「充分である」と「まあまあ足りている」を合わせると50.2%となるが、一方で「ぎりぎりである」という回答が30.0%ある。さらに無回答を除くと、残り18.6%が「不足」と答えたことになる。この割合は、前回調査からはほとんど変化していない。

図において、「授業料の納付ができない」以下の選択肢は複数回答である。最も多いのは「研究時間確保でアルバイトができない（12.0%）」であるが、「その他」の中には、逆に「アルバイトのため研究時間が取れない／睡眠時間が取れない」という回答もある。

研究科別にみると、「不足」という回答の割合が多い研究科は、図書館情報メディア研究科（25.9%）、人文社会科学研究科（23.3%）、人間総合科学研究科（22.0%）の順になっている。男女別では、「不足」と答えた割合が男性15.4%、女性25.1%と、やや顕著な差が見られた。

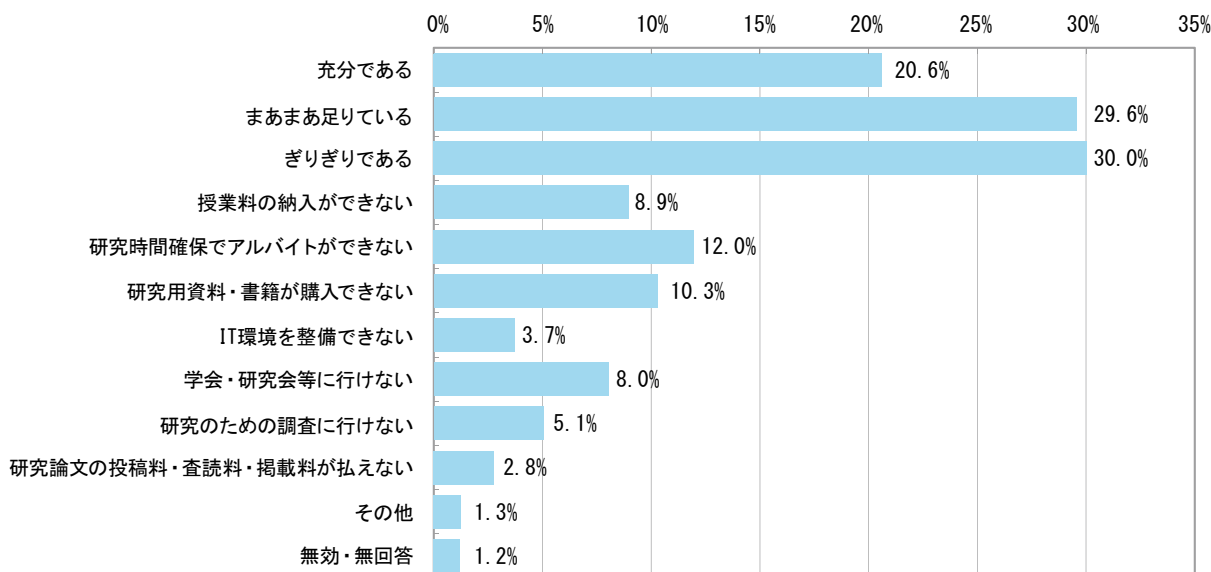


図6 1ヶ月の生活費・研究活動費（全体）

## 7 現在の日常生活の満足度について（問28）

- ◎6割の人が日常生活に満足をしている。
- ◎日常生活の満足度は生活費と関連がある。

日常生活の満足度を調査した。「かなり満足」から「かなり不満」までの5段階の項目のうちからひとつの回答を求めた。大学院生全体としてみると「かなり満足」と「おおむね満足」を併せた回答の割合が58.8%だった。この値は前回のアンケート結果より5ポイントほど増加している。反対に「少し不満」「かなり不満」と回答した人の合計は16.2%と、前回と比べて4ポイントほど減少している。経済不況や就職難と言われる中であって、本学における生活の満足度は高まっているようである。理由ははっきりとは分からないが、TXが開通し、大学のまわりが住みやすくなってきているなどの環境面、授業料免除やTA・FA含めた経済支援の充実などに関連すると思われる。男女別にみると、前回と同様に、ほとんど違いはなかった。研究科別では、それほどばらつきがないが、教育研究科が「かなり満足」11.0%、「おおむね満足」58.9%で平均よりも高い数値が出ている。学群学生と比較すると、「かなり満足」「おおむね満足」と回答した人の割合が大学院生の方が1割ほど下回っているという結果である。

日常生活の満足度は、問20「1ヶ月の生活費・研究活動費」と高い関連があるようだ。本項目で日常生活が「少し不満」「かなり不満」と答えた人のうちの9割は、問20で生活費が充分ではないと回答している。一方、問15「奨学金の受給」の有無とはあまり関係しなかった。したがって、生活費・研究活動費が足りない、真に経済支援を必要としている学生に奨学金等を給付することが、大学院生の日常生活の満足度を上げるためには効果があると思われる。

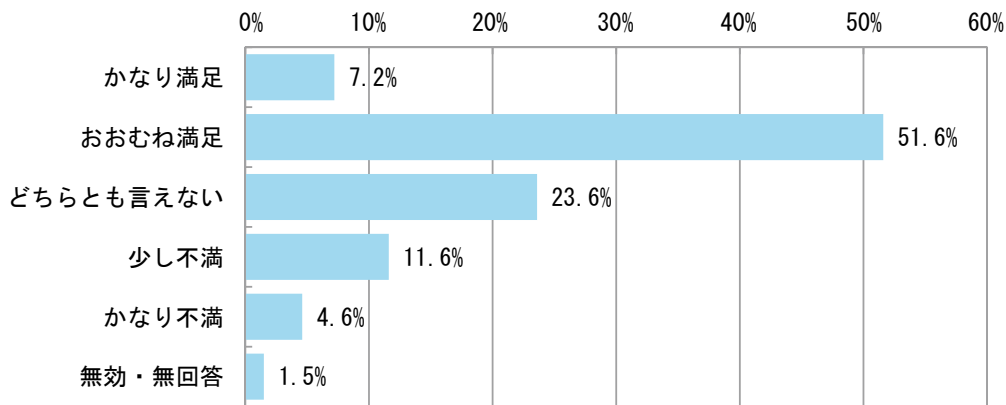


図7 現在の日常生活の満足度（全体）

## 8 教員に期待することについて（問44）

- ◎過半数は「優れた研究者」を期待している。

教員に期待することを3つ以内で答えてもらった。選択肢は前回調査（平成20年度）とほぼ同じだが、ハラスメントやメンタルサポートに関わる選択肢を入れ、生活面での要望がより明確に把握できるようになっている。

全体では、前回の調査と同じく半数以上の回答者が教員に対して「優れた研究者であって欲しい」と望んでいる（56.6%）。この他に回答率が比較的高いのは、「研究指導の時間を確保して欲しい」（32.8%）と「授業内容を充実させて欲しい」（31.8%）で、それぞれ3割を超える回答者がある。また、4分の1前後の回答者が「もっと解りやすく教える」（26.4%）、「学生との対話の場を持つ」（23.9%）、「社会的実践との結びつきを示す」（23.2%）ことを期待している。

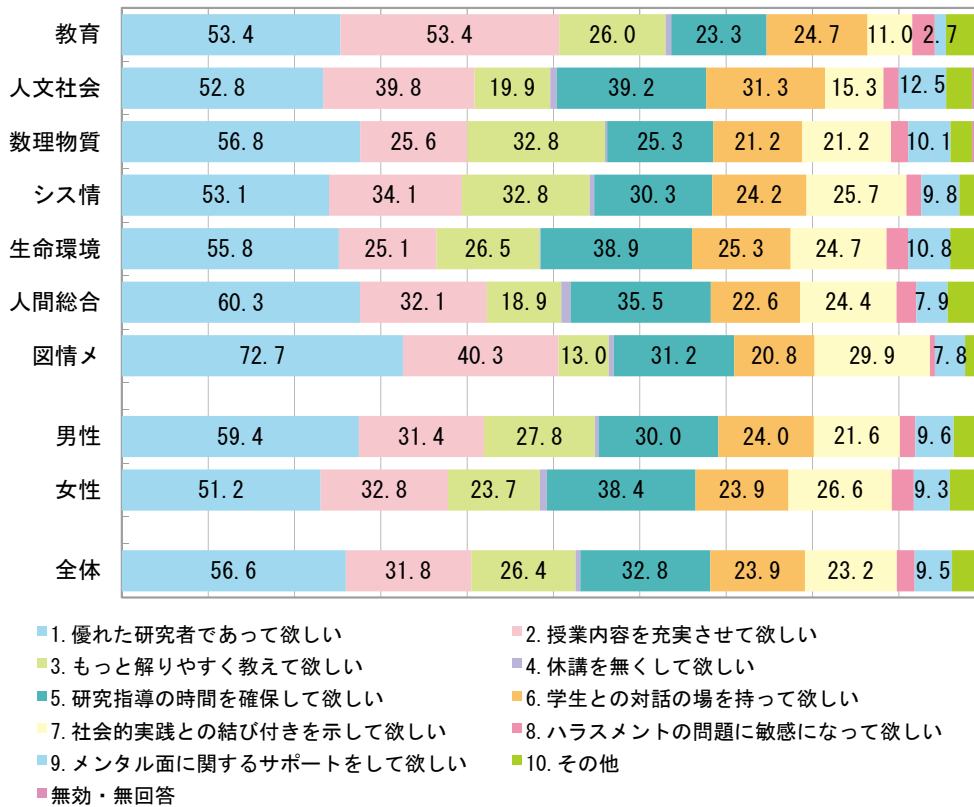


図8 教員に期待すること（研究科別，男女別，全体）

## 9 教育面や制度面で不十分な点について（問45）

- ◎経済的支援が不十分だと感じている声が多い。
- ◎就職活動支援に対する不満が大きい。

不十分と感じている項目を3つ以内で答えてもらった。全体で目立つのは、「経済的支援」（37.6%）と「就職活動支援」（29.2%）に対する不満で、前回調査と同様である。その他、「支援室・事務室の対応」（26.6%）、「カリキュ



図9 教育面や制度面で不十分な点（研究科別，男女別，全体）

ラム」(21.2%)の回答率も2割を超えている。全体に男女差はわずかだが、「就職活動支援」(男性26.9%,女性34.1%)については女性の回答率が7ポイントあまり高い。

研究科ごとの差も大きく、「カリキュラム」については教育で(31.5%),「経済的支援」については人文社会(50.6%),人間総合(42.4%),教育(39.7%)で、「就職活動支援」については図情メ(41.6%)で回答率が高い。「留学制度」に対する不満は全体では1割に満たない(9.8%)が、人文社会(13.1%),人間総合(12.4%)では、教育(4.1%)の3倍以上の回答者が不十分としている。また、教育では「支援室・事務室の対応」についても回答率が高い(39.7%)。

## 10 修了後の進路について (問50)

- ◎全体では、進学が9.7%, 研究員が2.3%, 就職が56.0%, 復職が3.4%。
- ◎無回答を含め、まだ決まっていない者は28.6%。
- ◎就職の内訳は、企業が38.3%, 教員12.5%, 公務員3.6%, その他1.6%。

進路は進学と就職に大きく分けることができるが、進学では、筑波大学への進学が進学者の8割を超えており、より専門的な研究を継続(ないし、継続を希望)している。就職では、企業への就職が就職者の約7割と非常に高い。研究科別では、シス情が64.9%, 数理物質が56.6%と、企業への就職率が高い。教育は67.1%と半数以上が小中高の教員である。人文社会と人間総合は、大学教員への就職、図情メと生命環境は、公務員への就職が比較的多い。また、研究員(ポスドク)は全体では2.3%であるが、人文社会が5.7%と高い。

表10 修了後の進路について(研究科別, 男女別, 全体)

	教育	人文社会	数理物質	シス情	生命環境	人間総合	図情メ	男性	女性	全体
(進学等) 筑波大学大学院	4.1	9.7	8.3	4.5	7.1	11.7	9.1	7.9	7.9	7.9
(進学等) 国内の他大学大学院	2.7	1.1	1.8	0.2	0.2	0.9	0.0	1.0	0.4	0.8
(進学等) 海外の大学院	0.0	2.8	0.5	0.5	0.5	1.3	0.0	0.5	1.5	0.8
(進学等) その他	0.0	0.6	0.0	0.0	0.2	0.4	0.0	0.1	0.3	0.2
(進学等) 研究員, 研究生等	1.4	5.7	1.8	1.5	2.5	2.7	0.0	2.5	1.9	2.3
(就職) 企業	0.0	9.7	56.6	64.9	32.0	14.9	27.3	43.7	25.9	37.7
(就職) 大学教員	2.7	21.0	2.3	3.0	3.9	14.2	3.9	5.8	9.9	7.1
(就職) 小・中・高校の教員	67.1	7.4	1.6	0.8	2.1	7.4	1.3	5.2	5.8	5.4
(就職) 公務員	2.7	3.4	1.0	2.6	6.7	3.4	9.1	3.1	4.5	3.6
(就職) 自営・起業	0.0	1.1	0.3	0.3	0.2	1.3	1.3	0.5	0.8	0.6
(就職) その他	0.0	1.1	2.1	0.7	1.4	3.1	1.3	1.2	2.6	1.6
(復職) 企業	0.0	0.6	0.3	0.2	1.4	0.9	0.0	0.5	0.9	0.6
(復職) 大学教員	0.0	0.0	0.3	0.0	1.8	0.0	2.6	0.7	0.1	0.5
(復職) 小・中・高校の教員	8.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.3	0.4	0.5	0.4
(復職) 公務員	0.0	4.0	0.3	1.2	2.1	0.5	2.6	1.2	1.3	1.3
(復職) 自営	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0
(復職) その他	0.0	1.1	0.3	0.0	0.5	1.6	0.0	0.5	0.8	0.6
その他	0.0	1.7	0.3	0.5	2.3	3.2	1.3	1.4	1.8	1.6
決まっていない	8.2	18.2	17.8	15.7	24.4	25.1	29.9	18.4	24.5	20.4
まだ考えていない	1.4	4.5	0.8	0.8	4.6	2.7	9.1	1.7	4.1	2.5
無効・無回答	1.4	6.3	3.9	2.6	6.0	4.1	0.0	3.8	4.5	4.1

## 11 自由記述

### 11.1 はじめに

本実態調査の有効回答2,321件のうち、自由記述欄への記入があったのは454件であった。自由記述に関する分析の方法並びに分析結果の記述方法については、前回は、まず454件の多様な意見を以下のA, B, Cの観点で分類し、分析した。

- A. 制度（経済支援、学生生活支援など）に対する要望・不満
- B. 教職員に対する要望・不満
- C. 施設に対する要望・不満（院生特有のもの）

さらに、次のD, Eの観点による分析を加えて、「個々の記述内容の概観」を構成した。

- D. 施設に関する要望・不満（学群生と共通する問題）
- E. 留学生関連の要望・不満

### 11.2 記述内容の概観

#### A 制度等に対する要望・不満

##### A1 経済的支援

前回のアンケート結果と同様に、授業料の免除や奨学金制度の充実など学費に対する経済的支援を求める要望が多かった。特に博士後期課程の学生に対する経済支援を求める声が多く、中には「博士後期課程の授業料の無料化などの支援が優れた人材の確保につながる」との指摘もあった。また、社会人学生を対象とした経済支援、私費留学生のための奨学金制度の充実を求める記述もみられた。一方、授業料免除や奨学金給付の選考結果に納得できず、選考の基準・方法について疑問があるとの意見や見直し案の提案が複数あった。

##### A2 学生生活支援

所属する研究室の閉鎖性を訴える記述が複数みられた。指導教員との関係など、研究室内の限られた人間との固定的な人間関係にストレスを感じているとの回答もあった。そうした状況の打開策として、研究室の公開や研究室外の人々と交流する機会を切望する意見が複数あった。また、他大学からの進学者が研究室内で孤立しがちであるといった事例の記述があり、他大学からの進学者を対象とした学生生活支援を望む声もあった。

学生相談窓口については、より気軽に相談に行けるような雰囲気や望む声が多かった。また、対人関係に関わる精神障害を持つ学生に対する支援を行ってほしいとの意見があった。

また、大学院生の意見をまとめ、大学側に伝えて意見交換を行うための学生組織を形成する必要性を指摘する意見があった。

##### A3 カリキュラムなど

「学生数が多く、教員の指導が学生一人一人に行き届いていないので、適切な定員数を見直してほしい」との意見が複数あった。

授業については、履修科目が多く、自身の研究のための時間が限られてしまうといった声や、授業内容についてはより専門性の高い内容を求める声があった。その他、他大学との連携や民間の人材との交流による教育内容の充実や学生同士の学術交流（学内外）を望む記述があった。

研究指導については、指導教員以外の教員からも指導を受けられるような柔軟な体制を望む声があった。また、教員の力関係による研究環境の優劣に対する不満や、「退職教員の補充がないので困る」といった意見もあった。

##### A4 その他の主な要望

- ・大学院生を対象とした就職支援
- ・学会参加費など研究活動全般を対象とした研究費支援
- ・学習情報や就職情報などに関する情報網の整備（インターネットの活用）
- ・ Semester 制の採用

#### B 教職員に対する要望・不満

##### B1 教員に対して：専門的な授業の不足、教育者としての資質に疑問、多忙すぎる

専門的な（ただし、教員の研究分野に極端に偏りすぎない）内容の授業をしてほしいという意見が多かった。また就職活動を行えるようゼミの日程などを教員が配慮してほしいとの要望もあった。

教育者としての資質に疑問を持っているという意見も多かった。例えば研究室学生に対する指導力不足、休講や遅刻が多い、精神的に病んでいる学生をほっておくといった内容である。

教員が大学運営業務や事務仕事、雑務に追われ、教員自身の研究や学生指導に使える時間が不十分であり、支障をきたしているとの指摘も多かった。また学生の自主性も必要だが、ある程度は教員が目配りしてほしいとの意見もあった。

## **B2 ハラスメント（アカハラ、パワハラ、セクハラ）**

全体にアカハラ・パワハラに関する様々な意見や訴えが多かったが、特に切実な意見を下記に記載する。

- ・学生の金銭負担による国内外学会への強制参加や、学会参加のための研究室における不公平な旅費補助が行われている。
- ・学生の研究室での研究時間を早朝から深夜までや土曜日も義務づけられ、ほとんど個人の自由がないが、教員に対して何も言えない状況である。
- ・指導の実態がなかったにもかかわらず、論文審査の段階になって「この論文は認められない」とするのは、ハラスメントである。

他に、指導教員が学生の将来を批判する、声をかけても不機嫌、学生を馬鹿にした発言や見下した態度をとる、学生の失敗を笑いながら他の学生に話すなど、教員の人間性を疑問視する声もあった。またアカハラする先輩をもっと教員がコントロールしてほしいという訴えや、院生同士の研究上のトラブルを教員に相談しても対応しないとの意見、研究室に過度な荷物を持ち込む学生を教員が指導してほしいとの声もあった。

セクハラに関する自由記述は3件のみとアカハラ・パワハラに比べて少なかったが、公的な注意を受けているにも関わらず、女子学生に対する性的発言や中傷を改めない教員がいるとの声があった。

## **B3 事務職員の院生対応への不満**

学生の立場にたって考えていない、不親切、行くたびに嫌みのようなことを言われる、横暴、たらいまわしにされるといった、多くは事務職員の対応の悪さを改善してほしいとの意見だった。少数だがいつも丁寧に対応してもらって助かっているとの意見もあった。

## **C 施設に対する要望・不満（院生特有のもの）**

### **C1 研究環境について（冷暖房、スペース、設備、不平等への不満と要望）**

夏の記録的な猛暑を反映してか、研究室・学習室・教室の冷房設備に関する声が多かった。大学院生の多くは、夜間や休日でも大学で研究活動を行っているため、18時以降や休日は止まってしまう集中冷暖房は厳しく、個別冷暖房を望んでいる。また研究棟によっては個別冷暖房が備えられているので、不平等を訴える声も多かった。また研究設備の充実、作品制作スペースの確保（芸術専攻）、研究棟内にシャワー設備やリフレッシュルームが欲しいとの要望もあった。

### **C2 図書館への要望**

特に休日や長期休業中（夏期・春期等）の開館時間の延長を求める声が多かった。また蔵書の充実を求める声もあった。

### **C3 食堂への不満・要望、コンビニエンスストア等の設置要望**

研究・実験が深夜まで及ぶことが多いので、食堂の営業時間の延長や、24時間飲食できる環境、特にコンビニエンスストアを学内に設置してほしいという意見、自動販売機を充実してほしいとの要望が複数あった。

### **C4 その他**

駐車場の無料化への要望、音楽関連のサークルによる騒音に対する不満、無料駐車場の設置、既婚女性学生への就学資金援助を要望する声もあった。

## **D 施設に対する要望・不満（学群生と共通するもの）**

### **D1 駐輪マナー**

通路が自転車で妨げられている、駐輪禁止区域への駐輪、点字ブロック上の駐輪など、自転車の駐輪マナーが悪いという意見がとて多かった。

### **D2 駐輪場等への不満・要望**

駐輪スペースの増設や整備を要望する意見が多くあった。

### **D3 自転車・バイクの運転マナー**

自転車の運転マナーを向上させてほしいという要望が多くあった。また、禁止されているにもかかわらず、ペDESTリアンや学内の歩行者用道路を走る、原付バイクの運転マナーについても指摘があった。

#### D4 学生宿舎

清掃をもっと頻繁に行ってほしいという要望が多かった。また、浴場やシャワー室の利用時間延長を望む声も多かった。居住者が不在時の火災報知器点検に関する不信感を訴える声もあった。

#### D5 禁煙・喫煙

学内全面禁煙制を求める意見が複数あった。一方、喫煙所を増やしてほしいとの声もあった。

#### D6 トイレ

学内のトイレをきれいにしてほしいとの意見が多数あった。

#### D7 キャンパス交通システム

学内循環バスの周行頻度をもっと高めてほしいとの意見が多かった。また最終時間をもう少し遅くしてほしいとの要望や、バスが時刻通り来ないことへの不満もあった。

#### D8 外灯、パトロール

外灯が少なく夜怖いという意見が多かった。また夜間パトロールをもっと増やしてほしいとの要望もあった。

#### D9 IT環境

学内無線LAN環境を強化してほしいとの意見が複数あった。

#### D10 その他

学内の建物や路面の老朽化を改善すべきという意見が複数あった。

### E 留学生

#### E1 英語環境の充実

英語が話せる大学スタッフの充実を求める声や意見が複数見られた。また、留学生のための授業は英語で行ってほしい、日本語による講義では英語の資料も提供してほしい、TWINS・掲示板・入学手続き・奨学金関連の書類に英訳を付けたり英語で準備してほしいとの要望もあった。また図書館に英語で書かれている日本関連の資料を充実させてほしいとの意見もあった。

#### E2 トラブル、差別

様々なトラブルや差別に関する下記のような意見があった。

- ・ 教員や学生の語学力不足によって円滑なコミュニケーションがとれないため、実験上トラブルが絶えず精神的にも疎外感を感じている。
- ・ 指導教員の対応が日本人学生と留学生である自分とで異なる（設備の使用、学会参加のための旅費補助など）。
- ・ 言語問題を理由に、留学生が参加できないサークルがある。
- ・ アジア系の留学生に態度が悪い職員がいる。
- ・ 日本人のグループには留学生が入れない雰囲気がある。

#### E3 その他

イスラム教の食事を食堂で出してほしいという意見があった。指導教員の適切な指導を求める声、経済支援を要望する声、冷暖房設備の充実、自転車マナー改善や禁煙を求める声は、日本人学生とほぼ共通していた。環境にとっても満足しているという声、大学のサポートやこの調査に対する感謝の気持ちを伝える言葉もあった。

### F その他

#### 本アンケートについて

アンケートが長すぎるという意見、どんな要望をどのように実現したかをHP等で公開してほしいなどの意見があった。

## 11.3 まとめ

寄せられた多様な意見や要望を整然と分類しまとめることは難しいが、大学院生に固有の要望・不満といった観点で個々の記述内容を振り返るとき、研究のための支援、研究環境の充実と改善を望む記述が多くみられたように思う。

# 大学院（東京地区）

## 1 性別・年齢・所属（問1～問3）

- ◎大学院学生（東京地区）の在籍数は676名。
- ◎年齢別構成は、30歳代が4割、40歳代が約3割。

まず基本的事項として、性別（問1）・年齢（問2）・所属研究科（問3）について尋ねた。結果は、表1にまとめた通りである。

東京地区大学院学生の在籍数（平成22年9月1日現在）は676名（ビジネス科学研究科495名（うち女性106名）、人間総合科学研究科181名（うち女性103名））である。

回答率については、ビジネス科学研究科19.8%、人間総合科学研究科45.3%であった。専攻レベルでは、経営システム科学1.5%、企業法学13.8%、企業科学3.0%、法曹47.3%、国際経営プロフェッショナル23.4%、スポーツ健康システム・マネジメント42.4%、生涯発達50.0%、生涯発達科学31.8%となっており、専攻間の違いがかなり見られる。

年齢別にみると、30歳から50歳が中心で、30歳代が4割、40歳代が約3割の構成となっている。

表1 回答者数（研究科別，男女別，年齢別）

研究科名	在籍数	回答者数	回収率	男性	女性	無回答	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答
ビジネス	495	98	19.8%	73	23	2	13	39	33	7	3	3
人間総合	181	82	45.3%	36	45	1	5	32	25	18	2	0
白紙・無回答		8		3	3	1	1	3	1	0	0	2
合計	676	188	27.8%	112 (59.9%)	71 (38.0%)	4 (2.1%)	19 (10.2%)	74 (40.0%)	59 (31.6%)	25 (13.4%)	5 (2.7%)	5 (2.7%)

## 2 筑波大学大学院を志望した主な理由について（問8）

- ◎志望動機として多いのは「希望分野」「自宅から通える」「指導教員の資質・能力」。
- ◎筑波地区に比べ「自宅から通える」が41.2%と多く地理的環境が顕著となっている。

筑波大学大学院を志望した理由について14項目の中から3つ以内の選択で回答してもらった。志望動機の中で最も多かったのは「希望する分野がある」（50.3%）であり、次いで「自宅から通える」（41.2%）、「指導教員の資質・能力」（28.9%）となっている。

筑波地区と比べ「自宅から通える」が41.2%と地理的環境が顕著となっている。

上位3項目に次いで、「研究領域」（25.1%）「教育内容」（18.7%）が志望理由となっており、大学の教育・研究施設や学費等よりも、立地的条件及び研究環境に重きを置いて進学先を決めていることがうかがえる。

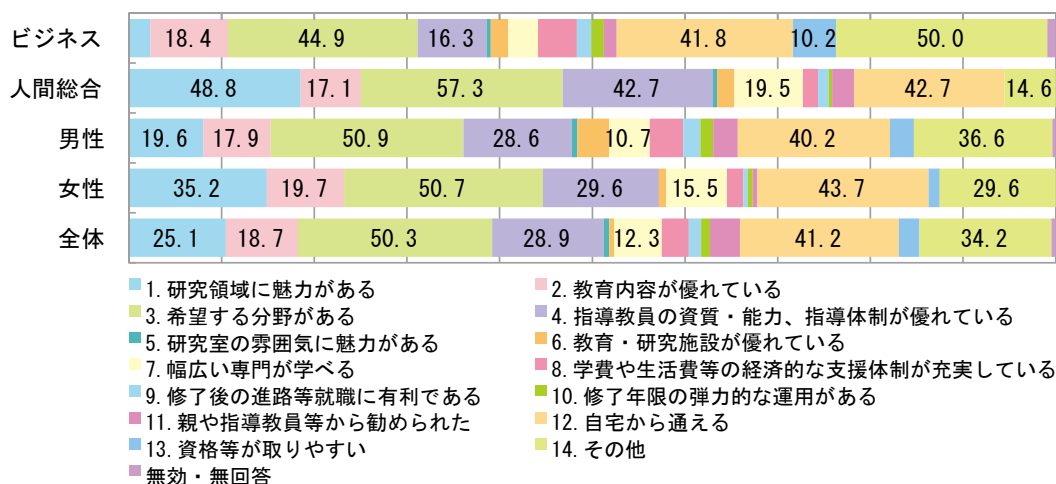


図2 志望理由（研究科別，男女別，全体）

### 3 現在の居住地について（問11）

- ◎約5割が東京都23区内に居住している。
- ◎東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県で94%

現在の居住地について尋ねた。その結果、約5割（49.7%）が東京都23区内に居住している。残りは東京都23区外・千葉県・埼玉県・神奈川県がそれぞれ1割前後となっている。筑波地区に比べると居住地は広く分布している。また、上記1都3県以外の地域を選択したもので茨城県に居住している者は5名であった。

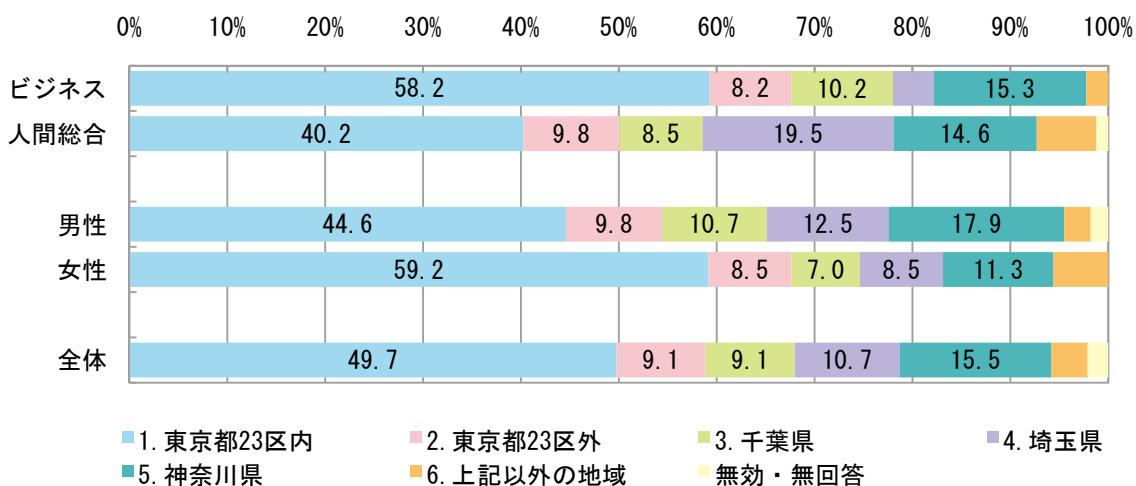


図3 現在の居住地（研究科別，男女別，全体）

### 4 世帯の年収について（問13）

- ◎年間収入が400万円未満の世帯は13.3%。

世帯の年収について尋ねた。年間収入が400万円未満の世帯が13.3%，1,000万円以上が26.7%を占めている。

表4 世帯の年収（全体，研究科別）

	全体		ビジネス		人間総合	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 200万円未満	8	4.3	5	5.1	2	2.4
2 200万円以上～300万円未満	7	3.7	4	4.1	3	3.7
3 300万円以上～400万円未満	10	5.3	2	2.0	8	9.8
4 400万円以上～500万円未満	16	8.6	5	5.1	11	13.4
5 500万円以上～600万円未満	23	12.3	14	14.3	9	11.0
6 600万円以上～700万円未満	9	4.8	4	4.1	5	6.1
7 700万円以上～800万円未満	13	7.0	6	6.1	7	8.5
8 800万円以上～900万円未満	19	10.2	11	11.2	7	8.5
9 900万円以上～1,000万円未満	23	12.3	11	11.2	10	12.2
10 1,000万円以上	50	26.7	29	29.6	19	23.2
11 分からない	4	2.1	3	3.1	1	1.2
無効・無回答	5	2.7	4	4.1	0	0.0

## 5 日常生活の満足度について（問21）

- ◎6割以上の人が日常生活に満足をしている。
- ◎男女差はほとんどない。
- ◎日常生活の満足度は生活費と関連がある。

日常生活の満足度を調査した。「かなり満足」から「かなり不満」までの5段階の項目のうちのひとつに回答してもらった。東京地区の大学院生全体としてみると「かなり満足」と「おおむね満足」をあわせた回答の割合が65.2%だった。反対に「少し不満」「かなり不満」と回答した人の合計は17.5%だった。満足度の値は、筑波キャンパスの大学院生と比べても6ポイント程度高い値になった。

日常生活の満足度は、問19の「1ヶ月の生活費・研究活動費」と高い関連があるようだ。本項目で日常生活が「少し不満」「かなり不満」と答えた人のうち9割は、問19で生活費が充分ではないと回答をしている。一方、問14「奨学金の受給」の有無とはあまり関連しなかった。

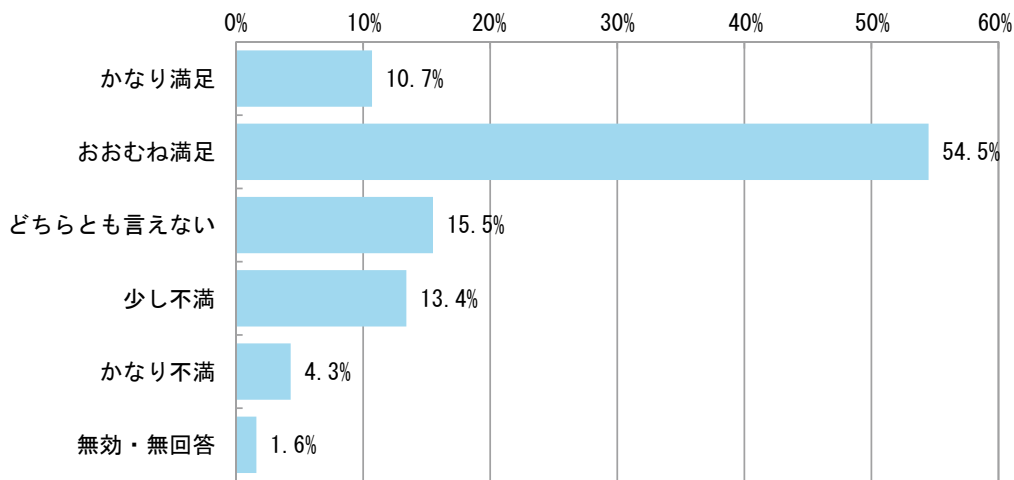


図5 現在の日常生活の満足度について（全体）

## 6 教員に期待すること（問29）

- ◎「授業内容の充実」を求める回答者が過半数。
- ◎人間総合では「優れた研究者」、ビジネスでは「授業内容充実」を求める声が多い。

教員に期待することを3つ以内で答えてもらった。選択肢は筑波地区と同様である。

「授業内容を充実して欲しい」と望んでいる回答者が全体の過半数を占めていることが目立つ（56.7%）。「優れた研究者であること」を期待する声もかなり高い（46.5%）が、「授業内容の充実」を期待する声がこれに勝っている。この他に回答率が高いのは、「もっと解りやすく教えてほしい」（37.4%）、「研究指導の時間を確保して欲しい」（21.4%）である。

教育面の期待の高さはビジネスで顕著で、「授業内容の充実」の回答率はビジネス70.4%、人間総合41.5%、「解りやすい教育」の回答率はビジネス53.1%、人間総合19.5%となる。一方、「優れた研究者」の回答率はビジネス30.6%、人間総合67.1%、「研究指導の時間確保」の回答率はビジネス9.2%、人間総合36.6%と、人間総合では研究面への期待が高い。

東京地区では研究科ごとの性別の偏りが大きい。ビジネスでは男性の比率が76.0%と4分の3を占めるのに対し、人間総合では44.4%と半数以下である。そのため研究科ごとの回答分布と性別による回答分布が並行する傾向があり、「授業内容の充実（男性60.7%、女性52.1%）」や「解りやすい教育（男性42.0%、女性31.0%）」の回答率は男性が高く、「優れた研究者（女性66.2%、男性35.7%）」と「研究指導の時間確保（女性31.0%、男性14.3%）」の回答率は女性が高い。

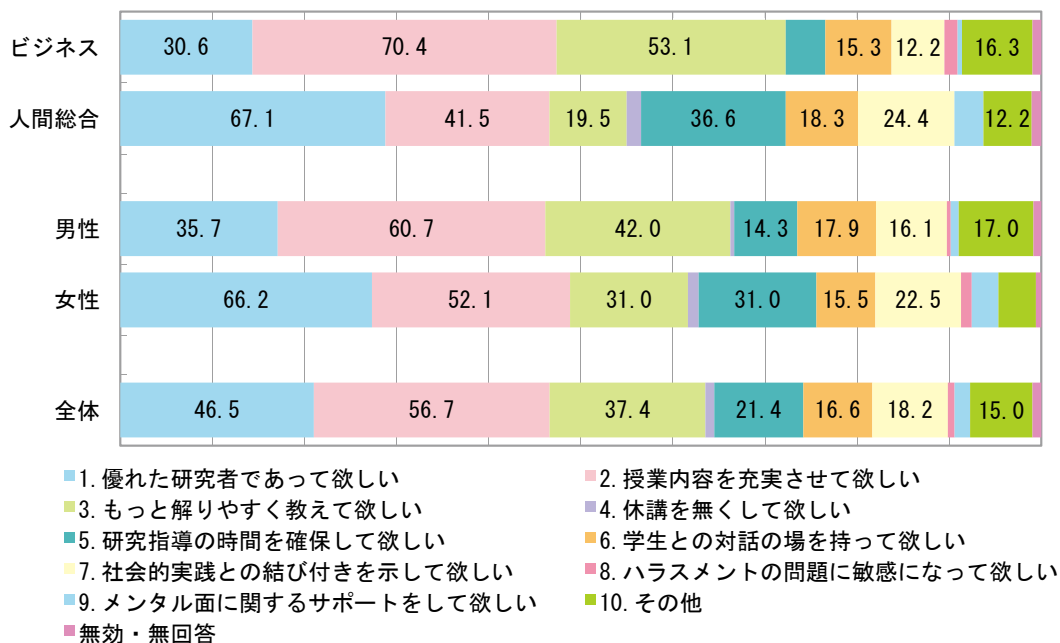


図6 教員に期待すること（研究科別，男女別，全体）

## 7 教育面や制度面で不十分な点（問30）

- ◎カリキュラムが不十分だと感じている声が多い。
- ◎経済的支援に対しても一定の不満がある。

教育面や制度面で不十分と感じている項目を3つ以内で答えてもらった。ただし、筑波地区より選択肢は2つ少ない（「課外教育プログラム」と「就職活動支援」の2つ）。

全体で最も大きいのは、「カリキュラム」に対する不満で、4割に近い（38.0%）。次に回答率が高いのは「経済的支援」（27.3%）、それに「教育研究スタッフ」（23.0%）が続く。

研究科別に見た場合、「カリキュラム」の回答率は特にビジネスで高く（51.0%）、過半数になっている上、人間総合（20.7%）の倍を上回っている。人間総合で回答率が高い選択肢は「経済的支援」（ビジネス25.5%、人間総合31.7%）、「支援室・事務室の対応」（ビジネス8.2%、人間総合23.2%）である。

研究科別の回答率分布はやはり男女別に概ね並行するが、「経済的支援」については人間総合の方が回答率が高いにも関わらず、男性の回答率が高くなっており（28.6%、女性25.4%）、注意が必要である。

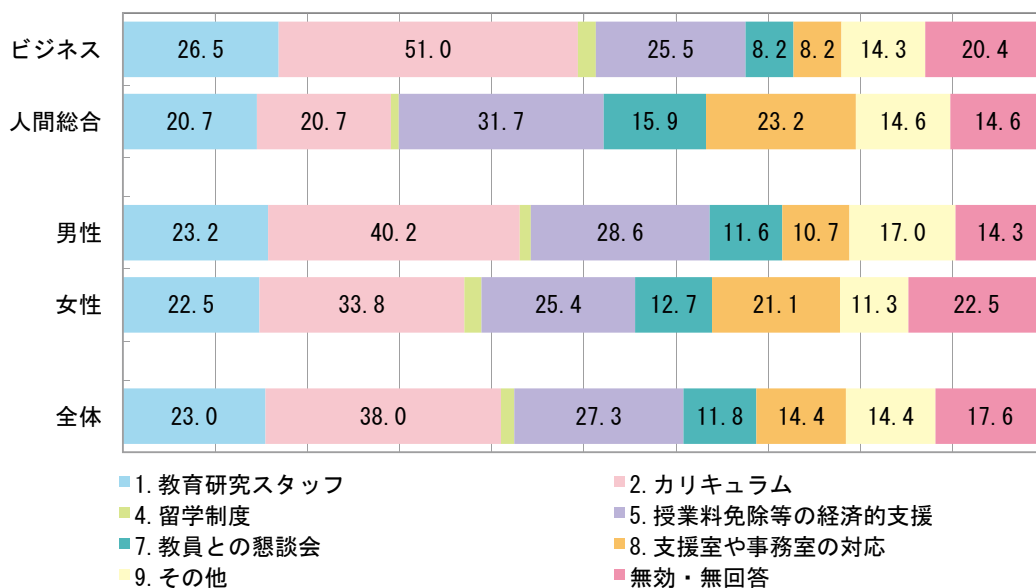


図7 教育面や制度面で不十分な点（研究科別，男女別，全体）

## 8 自由記述

### 8.1 はじめに

東京地区のアンケート有効回答数188のうち55件の回答があった。筑波地区と同様に、55件の意見をA（制度に対する要望・不満）、B（教職員に対する要望・不満）、C（施設に対する要望・不満）の観点で分類し分析した。

### 8.2 記述内容の概観

#### A 制度に対する要望・不満

##### A1 授業の開始時間

「多くの企業は18時までが就業時間のため遅刻することが多い」「夕食をとるための時間がほしい」「秋葉原から茗荷谷への移転のため通学時間が長くなった」等の理由で、授業開始の時刻を遅らせてほしいという意見があった。しかしながら、逆に、終業時刻が遅くなると勉強時間、就寝時間に影響があるため、開始時刻を現行のままか、あるいは17時に早めてほしいという声もあった。

##### A2 連絡広報体制

学内ネットワーク、専攻の掲示板、TWINS、図書館などのログインごとのパスワード、ユーザー名の統一希望が目立った。また、休講や連絡事項が、学内の掲示板だけではなく、ホームページ等でも分かるようにしてほしいという声もあった。

##### A3 カリキュラム

社会や産業界に関係する特定の科目の授業を開講して欲しい、また必修単位制度をもっとフレキシブルにすべきだという意見が見られた。

##### A4 キャリア・就職関連

キャリア・転職・進学に関する情報提供や相談窓口の設置など、具体的な支援体制の確立を希望する声があった。また、「科目履習生にならなくても卒業後のサポートが受けられるようにしてほしい」という声もあった。

##### A5 経済的支援

奨学金の給付や授業料免除の選考に際しては、東京キャンパスの学生の特徴を考慮してほしいという声があった。「筑波キャンパスの基準にされると東京キャンパスの学生は免除が受けにくくなる」「世帯収入だけではなく支出（住宅ローン、子供の学費など）の状況等も考慮すべき」といった意見があった。

##### A6 今後の制度変更へ向けて

「専攻によっては制度変更が多く、学生の意見を聞くことなく、決定後の説明会も不十分だった」という声があった。また、「社会人学生の負担を考慮して、試験期間開始前に1～2週間ほど試験勉強期間をもうけてほしい」「終了年限と休学期間を延長してほしい」といった声もあった。

#### B 教職員に対する要望・不満

##### B1 教員に対して：講義・指導力不足

授業に対する不満は多く、「授業のレベルが低い」「学生の目的（司法試験合格等）に対して熱意が感じられない」「一部の学生の意見だけを考慮して講義している」「チューター・TAなどがいない」「教員の病欠に対する補講などを早めに設定すべき」などの意見があった。また、教員による指導の充実を望む声が多く、「指導はもっと定期的にしてほしい」「論文答案の添削指導の機会も増やしてほしい」「教員に相談をしやすくしてほしい」といった記述があった。

##### B2 事務員の院生対応への不満

事務員の対応が丁寧でスピーディーだという声もあれば、「IT等が適切に機能していない」「スローで機転がきかない」といった意見もあった。また、「具体的な相談を誰にどのような手続きで行ったらいいのかわからない」という声もあった。

#### C 施設に対する要望・不満（空調、IT設備、売店、図書館）

IT環境と空調設備の整備、食堂、飲食店、自販機等の設置を希望する声があった。図書館については、図書の実態に関する要望があった。「法曹専攻の図書館を自由に使えるようにしてほしい」といった意見もあった。

### 8.3 まとめ

厳しい時間制限の中で大学院に通っている社会人大学院生特有の問題点が反映されていた。限られた時間の中で、よりスムーズ且つ適切に時間を使用して研究や学習に専念できるよう、学習環境の整備が求められている。また、大塚キャンパスへの移転に際して始業時刻の検討を要望する声があったが、校舎の移転に伴って想定される学習環境等の変化とデメリットについても留意し、今後の学生支援に取り組む必要があるだろう。

---

## 学生生活実態調査特集号 (号外)

発行 筑波大学学生生活課  
編集 学生生活支援室

TEL 029-853-4484  
FAX 029-853-6015

---

配布スタンド●1D棟3階・学生生活課前／学生生活支援室前／1C棟(2階)・3B棟・医学・春日エリアの各掲示板前  
2B食堂入口前／宿舎・各共用棟事務室前／大学会館UTショップ前

発行日 平成23年6月16日